

合併10年目を迎えた新恵那市。更なる消防力向上に努める

—恵那市消防本部—

恵那市は、岐阜県南東部に位置し、愛知県と長野県に隣接した、山紫水明の豊かな自然に恵まれた地域で、名古屋市を中心部からおよそ60kmの位置にある。

同市は、明治22年の町村施行後、明治の大合併を経て昭和29年に8か町村が合併し旧恵那市が誕生。その後、恵那郡南部での町村合併など様々な変遷を経て、平成16年10月に旧恵那市と恵那郡南部の5つの町村（岩村町、山岡町、明智町、串原村、上矢作町）が新設合併した。

今年は、「新恵那市」として誕生してから10年目を迎える記念の年である。

市の面積は504.19km²、人口は5万3,165人（10月1日現在）、世帯数は1万9,536世帯（同）となっている。

東には恵那山、南には焼山、北には笠置山に囲まれ、また山あいには木曾川や阿木川、矢作川などが流れ、四季折々の姿を楽しむことができる。

大正13年に木曾川をせき止めて造られた大井ダムと恵那峡周辺は、県立自然公園に指定され、その他、阿木川ダムや矢作ダム、小里川ダムなど、ダムの多い市としても知られている地域。

また、旧恵那市と恵那郡南部は、幕藩時代に岩村三万石の松平氏、その統一の旗本遠山氏が治めた地域が大半であることから、古くから歴史的、文化的さらには経済的にも深いかわりのある地域である。

さらに、地域内には中央自動車道、基幹道路として

国道19号、257号、363号、418号などが通り、さらに県を縦断する東海環状自動車道、東海北陸自動車道の全線開通により、観光、産業、文化都市としての飛躍的な進展が期待されている。

歴史的な観光資源としては、中心市街地を横断する中山道大井宿、南部には800年の歴史を持つ女城主の城下町の岩村町、レトロな雰囲気漂う日本大正村がある明智町があり、これらは、第三セクター運営されている明知鉄道（全長25.1km）によって結ばれている。

また、明智という名で知られるのが名将「明智光秀」。本能寺の変で主君・織田信長を討ち取ったことで知られるが、一方、妻・熙子を迎え一生一人の女性を愛し通し、側室を置かない愛妻家という一面や領内の統治に対し優れた手腕を発揮し、領民から慕われていたこと、さらに、鉄砲の名手として技能を買われ戦場での活躍などの逸話も多く聞かれるなど、近年では、新たな魅力に対し再評価されている。

ここ明智町では、光秀ゆかりの地として、名将光秀公を偲び、光秀公を先頭に、騎馬武将、少年少女が扮する武者や姫君、山車が練り歩く「光秀まつり（明智光秀公武将行列）」が毎年5月に開催されている。

また、重要伝統的建造物群保存地区に選定されている岩村地区では、水路が家屋の中庭に整備され、通常時は生活用水として使用され、災害時は防火用水として活用されている「天正疎水」（1575年・天正3年設置）や、土蔵の耐久性を上げて保全する目的に加え、火災が発生した際には、建物への延焼を防ぐ効果もあったといわれている「なまこ壁」が壁に施されているなど、昔から防火に対する意識が高い地域であり、この地域で伝統的建造物が多く保存されているのも、先人の防火意識の高さから伺うことができる。

さらに、この地区の消火器具は、景観に配慮するとともに、誰でも初期消火に対応できるよう一人で操作できる消火設備を設置している。

今回は、恵那市消防本部を訪問し、永治清消防長に恵那市の消防行政の取組についてお話を伺った。

恵那市の防災キャラクター「マモリュウ君」

平成21年5月に誕生した防災キャラクター「マモリュウ君」。マモリュウ君の目は市の中心市街地に位置し、しっぽの赤色回転灯は緊急を意味する。このキャラクターを「竜」には、恵那市に残る「竜王さま」山岡町、「竜の戦い」上矢作町など竜まつわる民話、恵那市の形、災害、水害はよく竜に例えられるためなど、いろいろな意味が含まれている。

